

平成30年度第2回「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会 報告

開催日 日時：平成30年10月5日（金） 午前10時～11時30分
場所：さいわいプラザ 会議室

出席者

- ・子ども・子育て会議委員（池田委員、櫻井委員、桃生委員、兒玉委員、横澤委員）
- ・スクールソーシャルワーカー（本間良子氏）
- 【アドバイザー】新潟県立大学 小池由佳 教授（長岡市子ども・子育て会議アドバイザー）
- 【事務局】生活支援課、福祉課、学校教育課、学務課、子ども家庭課、保育課、青少年育成課
- 【見学者】子ども・子育て会議委員（山川副委員長、長谷川委員、竹樋委員、渡辺委員）

内容

8月に実施した「子育て世帯の生活に関する調査」の中間報告及び子どもナビゲーターの活動状況報告から見えてきた課題や今後必要な取り組みについてグループワークを実施



2グループに分かれて検討



検討結果を発表

平成30年度第2回「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会 報告

親への支援

①相談窓口の問題

- 多忙で役所に行くこと自体大変な家庭が多い
- 様々な窓口で相談し、たくさん書類を用意して申請しなければならない煩わしさ
- 「貧困」は人に知られたくないので相談しにくい

行政の窓口の一本化と、ネットワークの構築、支援のためのアウトリーチが必要

②親の自己肯定感の低さ

- 経済的に厳しい家庭の親は自己肯定感が低い傾向にある
- 親の自己肯定感が低ければ子どもの自己肯定感も必然的に低下
- DV、ネグレクトにつながりやすいためケアが必要

大きな問題にならないよう学校・行政・地域連携による見守りが必要

③親の感覚の問題

- 周りから見ると大変な家庭だが、当事者は困り感がない
- 支援を求めている家庭にどう支援するか

具体策として…

家庭に入り込んで味方になってくれる人が必要

⇒子どもナビゲーター業務の充実

⇒貧困の視点でのネットワークの構築

子どもへの支援

- 経済状況によらず、無料であれば体験させたい家庭が多い
- 体験の不足が子どもの成長(育ち)に影響を与える
- 教育にかかる費用の負担度
- 孤食の子が多い
- 「貧困」は健康状態にも影響を与える

具体策として…

無料の学習・体験の機会が必要

⇒子ども食堂などでの学習支援

⇒地域での体験活動の充実

平成30年度第2回「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会 報告

- 今回の調査を実施したことで、長岡市にも「貧困」といわれる状況にある子ども・家庭の存在があることを共有できたことは大きな事であり、子どもや子育て家庭に接点がある私たちが**重く受け止め、意識することが大切**。
- 調査結果により、経済的な状況で差が出ているものと差が出ていないものがあったが、差が出ていないものについては、**保護者がなんとかして埋めようとしていることが考えられる**。
- 本来子どもたちに必要なものであっても、**親は生活に必要なものを優先し、最終的に体験したり経験したりする機会が阻害されているのではないか**。
- アウトリーチ、ワンストップ窓口という仕組みづくりや行政ネットワークが課題になってくる中、**子どもナビゲーターを置いたことは非常に意味があり、「見えにくい貧困」が見えてきているので、調査結果と併せて情報を共有して施策や計画づくりを進められるとよい**。

平成30年度第2回「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会 報告

部会員からの意見 ～課題や取組内容～

無料の学習・体験活動の必要性

- 経済状況によらず、無料であれば体験させたい家庭が多い
- 体験の不足が子どもの成長（育ち）に影響を与える
- 教育にかかる費用の負担度

貧困に関する相談窓口

- 役所に行くこと自体が大変な家庭が多い
- 「貧困」は人に知られたくない
- 様々な窓口に出向いて手続きをしなければ支援は受けられない
- ワンストップでの相談、手続きが求められる

親の自己肯定感の低さ

- 経済的に厳しい家庭の親は事故肯定感が低い傾向にある
- 親の自己肯定感が低ければ子どもの自己肯定感も必然的に低下
- DV、ネグレクトにつながりやすいためケアが必要

子どもナビゲーターの重要性

- ナビゲーターの動きにより学校の気づきや問題意識に変化
- 行政から出向いて相談を受けることが必要
- ナビゲーターの人数を増やす必要がある

食事の問題

-

親の資質の問題

- 周りから見ると「問題あり」だが本人が困り感を感じておらず、支援を要求していない親にどう支援するのか
- そういった家庭が孤立化しないよう、地域ぐるみでの見守り、声かけをする取組が必要